

・ 5分前着席を心がけましょう

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

奏 楽 森 永 美 保 姉 妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 3 : 1 力 の 主 を ほ め た た え ま つ れ

力 の 主 を ほ め た た え ま つ れ わ が 心 よ 今 し も 目 さ め て

た て ご と か き な ら し つ つ 御 名 を ほ め ま つ れ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩 編 51 編)

かみ 神よ、わたしを^{あわ}憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの^{とが}咎をことごとく^{あら}洗い、^{つみ}罪から清めてください。わたしは^{とが}咎のうちに^う産み落とされ、^{ほほ}母がわたしを^み身ごもったときも、わたしは^{つみ}罪のうちにあったのです。

わたしを^{あら}洗ってください。雪よりも^{しろ}白くなるように。かみ 神よ、わたしの^{うち}内に^{こころ}清い心^{そうごう}を創造し、^{あた}新しく^{たし}確かな^{れい}霊をさずけてください。救いの^{すく}喜びを^{よろこ}再びわたしに^{あじ}味わわせ、^{じゆう}自由の^{れい}霊によって^{ささ}支えてください。主よ、わたしの^{くちびる}唇を開いてください。この^{くち}口は、あなたの^{さんび}賛美^{うた}を歌います。主イエス・^{しゆ}キリストの^み御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、^{なにもの}何者をも^{かみ}神としてはならない。
2. あなたは自分のために^{ぞう}刻んだ^{つく}像を造ってはならない。それに^ふひれ伏してはならない。それに^{つか}仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの^{かみ}神、^{しゆ}主の名を、^なみだりに^{とな}唱えてはならない。主は、^なみ名をみだりに^{とな}唱える^{もの}者を、^{ばつ}罰しないではおかない。
4. ^{あんそくにち}安息日をおぼえて、これを^{しゆ}聖とせよ。
5. あなたの^{ちち}父と^{はは}母を敬え。
6. あなたは^{ころ}殺してはならない。
7. あなたは^{かんいん}姦淫してはならない。
8. あなたは^{ぬす}盗んではならない。
9. あなたは^{りんじん}隣人について^{ぎしやう}偽証してはならない。
10. あなたは^{りんじん}隣人の^{いえ}家をむさぼってはならない。^{りんじん}隣人の^{つま}妻、またすべて^{りんじん}隣人の^{もの}ものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 73 : 1 人 よ、 な が 罪 の

人 よ な が 罪 の 大 い な る を 嘆 き 悔 い て 涙 せ よ

こ の ゆ え キ リ ス ト 父 の も と を 去 り こ の 世 に 来 ま し め

死にたるを生かし 病を取り去り ついに時いたり

人の罪のため 十字架の贖い 終えさせたまいぬ アーメン

共同の祈禱 祈禱書22 救済史祈禱⑥ 新しい契約

わたしたちの主イエス・キリストの父なる神さま、あなたは、時満ちて、御独り子を世に遣わされました。神の人格的御言葉そのものであるキリストは、受肉と公生涯、十字架と復活によって、神のみ旨を十分に啓示し、キリストを証しする聖書を完結させられました。そして、あなたは、イエス・キリストを信じる者に、神の律法をその心に記し、その悪を赦し、その罪に心を留めることはない約束してくださいました。それゆえ、わたしたちは、感謝をもって、委ねられたキリストの御言葉を宣べ伝えつつ、主の再び来られる日を待ち望みます。(ガラテヤ4、ヨハネ5、エレミヤ31、「聖書」一)

献 金 (黒)教会活動 (赤)大会会議を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

《 子どもプログラム 那珂百合子姉妹・森川真菜姉妹 主我を愛す 》

聖書朗読 ルカによる福音書 1章39 - 56節 (新約聖書100頁)

説教・祈禱 「胎内ダンス」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 讃美歌95：1 わが心はあまつ神をとうとみ

わが心は あまつ神を とうとみ

わが魂 救い主をほめまつりて喜ぶ アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 69父の御神に・御子に・聖き御霊に

父の御神に・御子に・聖き御霊に

昔ながらの御栄えあれや ときわに アーメン アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

門脇陽子長老

I 祭司ザカリアの家に行ったマリア

39節「そのころ」。36節で天使はマリアに「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう6ヶ月になっている」と告げました。そして56節に「マリアは、3ヵ月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った」とあります。エリサベトの子供は、もう生まれる頃です。そこで39節の「そのころ」とは、天使がマリアに受胎告知してまもなくです。聖書にはよく「そのころ」というのがあって、いつ頃なのか漠然としていることがありますが、これは、受胎告知のあとヨセフと結婚してすぐ、「マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った」のです。

そして3ヵ月も祭司ザカリアの家においたので、受胎告知もマリアの賛歌も、ザカリアがマリアから聞いて書き留めておいた可能性があります。それが文書資料になっていて、ルカが用いた可能性があります。ただ、マリアの賛歌は、これほどの内容を15歳の少女が歌えるだろうかと思わされるので、ルカが直接取材した時、75才のマリアが歌ったのをルカが書き留めた可能性も考えられます。そうすると、朗読する時は、「風の谷のナウシカ」に出てくる老婆のように「その者、あおき衣を着て・・・」という声で読まないといけなわけです。しかし、マリアは今天国で、「バカにしないでよ。今時の15才とは違うのよ」と言っているかも知れません。

それにしても、マリアはガリラヤからサマリアを通過してユダヤに行くのに、一人でいったのかなあ、危ないなあ、と思わされます。イエス様が生まれる時はヨセフが一緒です。住民登録の時なので、他の人たちと一緒にだったキャラバンの可能性もあります。だから、マリアがエリサベトに会いに行った時、誰かが一緒だったと思います。この辺を、ルカはもうちょっと詳しく書いてくれないと気になりますね。テオフィロ閣下には関係ないことですが。

II 胎内の子がおどった

マリアがザカリアの家に着いてエリサベトに挨拶すると、エリサベトの胎内の子がおどりました。もう6ヶ月になっているのですから、胎児の動きは感じるでしょう。しかし、そういう普通の胎児の動きとは違うものを、エリサベトは感じました。この子は喜んでダンスしていると感じました。

「主のお母さまが私のところに来てくださるとは、どういうわけでしょう」と、あまりにも恐れ多いことなので、感動しました。ということは、マリアの「胎内のお子さま」が「主」であることを知っているわけです。どうして知っているのでしょうか。

一つは、夫のザカリアから聞いていること。主に先立って準備をする洗礼者ヨハネが、自分から生まれると。それからもう一つは、マリアが「主のお母さま」であることを、ヨ

セフとマリアの結婚で知っていることです。

この辺は、マタイ福音書から補足しないと、天使から受胎告知を受けたマリアが、すぐ立ってエリサベトに会いに飛んで来たみたいで。その前に、夫ヨセフは、天使から「心配しないで、妻マリアを迎えるがよい」と告げられて、二人は結婚したのです。それが、親戚のエリサベトにも伝えられていました。天使は、ザカリアとマリアとヨセフの3人に、神の言葉を告げました。エリサベトはそれら全部合わせて知っていたのです。マリアから生まれるのが「主」であることを。

さて、エリサベトとマリアが会った時、胎内の子供たちの初顔合わせが起きました。エリサベトは、聖霊に満たされて声高らかに言いました。「あなたの挨拶のお声を私が耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。」

さらに言いました。「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう。」 この訳し方だとマリアだけが幸いであるかのようにですが、「信じた方」、これは女性名詞単数形ですから「信じた女」です。エリサベトは「あなたも幸い、私も幸い」と言っているのです。いやむしろ、この時点では、「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた」のはエリサベトでした。マリアは天使から言われた事実を確認しに来た意味もあるので、その事実を見て、「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた」信仰が増し加わったのです。そこでマリアは讃美しました。

Ⅲ マリアの賛歌

この歌の特徴は、低さと高さです。音ではなく身分の低さ高さです。マリア自身が「身分の低い、この主のはしため」（48節）と言っています。これは、キリストの生まれ方の身分にも関わっています。古里のナザレ村では「あれは大区の息子じゃないか」と言われたほどの身分です。

キリストは「ダビデの子」という称号を持つのですから、当然、エルサレムの宮殿をイメージします。メシアはいちばん身分の高い王族から生まれると思っています。だから、「ダビデの子」を産むのは、王妃様です。ユダヤ人もマリアも、そう思っていました。ところが、神の思いは、人の思いと違っていたのです。そのギャップをマリアは歌っています。

「力ある方が、私に偉大なことをなさいました」（49節）

「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし」（51節）

「権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ」（52節）

「飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」（53）

どうも読んでいて、これが15才の女の子かなあと思ってしまいます。15才にしてこんな歌を歌えるのは、革命の指導者になるような女性じゃないかなあと思ってしまいます。しかし、マリアには、ジャンヌ・ダルクのようなカリスマは感じられません。

もう一つこの歌の大切な内容は、最後の54.55節です。

「その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、
私たちの先祖におっしゃったとおり、
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

イスラエルは神の民でありましたが、繰り返し偶像礼拝に傾き、たび重なる背きの罪のゆえに、国は滅び、民はバビロンの奴隷になってしまいました。世代は次々と代わり、神との契約を覚えることなく、その約束を忘れていたのですが、神は契約に忠実で、その約束をお忘れになりませんでした。そこで、アブラハムとその子孫に対してとこしえの契約とされたことを、覚えておられます。その契約には二つの恵みが約束されていました。

「約束の地」と「約束の民」です。約束の地はキリストによる神の国、約束の民はキリストに結ばれる神の子たちとして実現しました。救い主の誕生によって、今こそ、神は契約を覚えて約束を果たそうとしておられます。

IV 契約の約束は異邦人に及ぶ

約束の地は遠く異邦人の地にも及びますから、当然、約束の民も異邦人を含んでいました。アブラハム契約を確認してみましょう。

創世記12：3「あなたを祝福する人を私は祝福し、あなたを呪う者を私は呪う。地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」 約束の民は、アブラム一族だけではありませんでした。神の祝福は地上の全てに及びます。

創世記13：14-17「主は、ロトが別れて行った後、アブラムに言われた。『さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。見える限りの土地をすべて、私は永久にあなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫を大地の砂粒のようにする。大地の砂粒が数えきれないように、あなたの子孫も数えきれないであろう。さあ、この土地を縦横に歩き回るがよい。私はそれをあなたに与えるから。』」 約束の地は、「見渡す限りの東西南北」です。イスラエルに限定されません。

創世記15：18-21「その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。『あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、カイン人、ケナズ人、カドモニ人、ヘト人、ペリジ人、レファイム人、アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の土地を与える。』」 このリストに「カナン人」があります。約束の地は「カナン」だと、最初、言われていました。

創世記12：6-7「アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの櫛の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。主はアブラムに現れて、言われた。『あなたの子孫にこの土地を与える。』」 ところが、カナン人はリストの一つに過ぎませんでした。「見渡す限りの東西南北」は、当時アブラハムたちが知っていた全世界でした。それが「エジプトのナイル川からメソポタミアのユーフラテス川に至るまで」です。ですから、「見渡す限りの東西南北」は、私たちを含む全世界です。

そこで、マリアの讃美の最後「アブラハムとその子孫に対してとこしえに」は、私たち

にも及ぶのです。それならば、私たちもマリアと共に讃美できます。「私の魂は主をあがめ、私の霊は救い主である神を喜びたたえます」と。

旧約時代のイスラエルと同様、新約時代の神の民も、繰り返し神に背いて罪を重ねてきました。世俗化に飲み込まれては偶像礼拝に傾いてしまいました。日本の教会も例外ではありません。活ける真の神を礼拝しながら、現人神（あらひとがみ）天皇をも礼拝してしまいました。戦時中のその罪を、神の御前に恥じることから日本キリスト改革派教会は始まっています。

創立から75年、契約の子らへの信仰の継承はどうでしょうか。神との契約を覚えることなく、その約束を忘れている状態はないでしょうか。各個教会の教会学校はどうでしょうか。全国的な課題ですから、大会や中会は青少年の修養会やキャンプを増やしてきたのです。

神は契約に忠実で、その約束をお忘れになりません。アブラハムとその子孫に対してとこしえの契約とされたことを、覚えておられます。その子孫たちに、私たちも入れられたのですから、私たちも神との契約に熱心で、約束に忠実な者となりましょう。洗礼の誓約、幼児洗礼の誓約、役員誓約、これらは皆、神との契約です。神との契約には必ず恵みが伴っているのですから、感謝と期待をもって約束を守りましょう。